

Joetsu Symphony Orchestra

上越交響楽団



Joetsu Symphony Orchestra 67th Regular Concert

上越交響楽団 第67回 定期演奏会

2011年9月3日(土)

18:00 開場 / 18:30 開演

上越文化会館 大ホール

指揮：長谷川正規

Conductor : Masanori Hasegawa

コンサートマスター：三溝健一

Concertmaster : Kenichi Samizo

管弦楽：上越交響楽団

Orchestra : Joetsu Symphony Orchestra

交響曲第3番ヘ長調

作品

90

Johannes Brahms (1833-1897) : Symphony No.3 in F major, Op.90

ブラームス

Ludwig van Beethoven (1770-1827) : Symphony No.7 in A major, Op.92

ベートーベン

交響曲第7番イ長調

作品

92



ごあいさつ

上越交響楽団 団長 古海法雲

本日は上越交響楽団の定期演奏会にお越しくださいませと真にありがとうございます。
今年3月11日には未曾有の大地震と大津波、そして原発の事故と続き大勢の犠牲者と避難者が出ました。心から哀悼の意を表します。

私たちは3月13日に定期演奏会を予定していましたが、中止の止む無き事となりました。来場下さる様予定しておられた皆様には大変なご迷惑をお掛けしましたことをお詫びいたします。

そして今回の演奏会を迎えたわけですが、私たちにとっても万感の思いがあります。音楽が出来ることの喜びを改めて感じた次第です。だから3月13日には演奏会をやりたいかった。こんな時だからこそやるべきだった。と後から思っているのですが、でも無理だったのも事実です。メンバーの中にはステージに来ることも出来なかった人も有ったのですから。

今回改めて定期演奏会を開くことが出来ましたことを皆さんとともに喜びたいと思います。新たに指揮者として長谷川先生をお迎えすることが出来ました。先生は若手の新進気鋭の方です。昨年春の「くびき野の歌」で初めて出会いましたが大変な情熱をもって指導していただいています。私たちも何とか応えようと努力しています。今日の演奏会が地震等で被災された方々と共に元気を出して生きて行ける事になれば幸いです。

指揮者

Hasegawa, Masa,ori 長谷川正規



東京藝術大学音楽学部器楽科にてチューバを専攻、学部在学中に安宅賞を受賞。同大学大学院音楽研究科修士課程修了。ソリストとして、松尾葉子指揮藝大フィルハーモニア、故岩城宏之指揮オーケストラアンサンブル・金沢とR.V.ウィリアムスのチューバ協奏曲を共演した。チューバ奏者として管弦楽・吹奏楽・室内楽の領域で活動する傍ら、近年指揮の機会も増えてきており、2010年秋創立の新潟市・北区フィルハーモニー管弦楽団や、有志による「ハセガワ・キネン・オーケストラ」等で活動している。これまでにチューバを稲川榮一氏に師事、現在は上越教育大学大学院学校教育研究科専任講師。なお、上越交響楽団とは上越文化会館30周年記念事業「くびき野の歌」に続き、2度目の共演となる。

コンサートマスター

Samizo, Ken-ichi 三溝健一



長野県松本市出身。4歳よりヴァイオリンを始め、正岡紘子、天満敦子、山岡耕彦の各氏にヴァイオリンを、東京音楽大学にて井上將興氏にヴァイオリン及び室内楽を師事。また、肥沼さよ、竹内邦光、松本紀久雄、丸山嘉夫、汐澤安彦の各氏にピアノ、ソルフェージュ、音楽学、指揮法を師事する。

学生時代から様々な分野での演奏活動を始めるが、殊に室内楽では「ENSEMBLE 藝弦」（弦楽合奏）と「室内楽“E A U”」（ピアノアンサンブル）を中心とした活動において研鑽を積み、現在は「音泉室内合奏団」を中心に演奏活動を展開している。

ソロ、室内楽、オーケストラ、オペラ等の演奏活動に加えて、関東甲信越各地の市民・学生オーケストラにおいて指導者として活動の発展に尽力、また初心者から専門課程の学生及び演奏家まで幅広く後進の育成にもあたっているほか、編曲も多数手掛けている。

足立シティオーケストラ（常任コンサートマスター・副指揮者）、松本交響楽団（客演コンサートマスター・副指揮者）、上越交響楽団、柏崎フィルハーモニー管弦楽団、大妻女子大学管弦楽団、他（客演コンサートマスター・トレーナー）。音泉室内合奏団（ソロ・コンサートマスター・音楽監督）。池袋音楽学院講師。「Gruppo Violini」主任講師。

楽団紹介

上越交響楽団は1972年に結成され、毎年2回開催している定期演奏会、各方面からの依頼演奏会や行事への参加を通して皆様に親しまれてまいりました。

アマチュアの団体が長期間活動を継続するには苦勞もありますが、上越市を中心に近隣の糸魚川、妙高、柏崎などから仕事や勉学をやり繰りして音楽を愛する仲間が集い、質と達成度の高い音楽を表現すべく様々な楽曲にチャレンジしてきました。編成は室内楽から大編成の楽曲まで、レパートリーは古典のモーツァルトやベートーヴェンから、難易度の高いマーラー、ブルックナーやストラヴィンスキーまで多岐にわたります。

現在は三溝健一氏をコンサートマスターに、長谷川正規氏を指揮者に迎え、ますます充実した活動を展開しています。





ベートーベン

交響曲第7番 イ長調 作品92

Ludwig van Beethoven / Symphonie Nr.7 A-dur, Op.92

交響曲第7番は「運命」「田園」から約4年後に完成した、後期の作風に移行する過渡期の作品です。当時ベートーベン名実ともにウィーンを代表する大作曲家になっていましたが、フランス・ナポレオン軍のウィーン占領という戦乱の中で、生活の困窮、耳の病の悪化、そしてピアノ曲「エリーゼのために」を捧げたことで有名な令嬢テレーゼとの失恋などで心の内は穏やかではありませんでした。そんな時、保養に出かけた温泉地で旧知の女性歌手ゼーバルトに再会し親しくなり、やさしい世話を受けることで慰められたと言う事です。失恋後の、とかく闘争的になりがちな気持ちは、ゼーバルトとの暮らしによって安らぎを取り戻しました。このことが明るく活動的な曲想に反映していることは十分に考えられます。

この曲はリズムの扱いで、それまでには無い革新的な作風が採られています。特に第1楽章は1つのリズムを貫徹するという試みがなされており、その他の楽章もそれぞれ特徴のあるリズムが用いられ、曲が展開していきます。全曲がリズムの効果によって統一されることで、極めて推進的な感じを抱かせます。

革新的故に論評は賛否両論あり、リストは「リズムの神化」、ワーグナーは「舞踏の神化」と呼んで絶賛する一方で、ウェーバーは「ベートーベンは今や精神病院行きだ」との言葉を残し、指揮者ワインガルトナーは「他のいかなる曲よりも精神的疲労を生じさせる」と評したとされています。このようなエピソードは、この交響曲が当時の人々に与えた影響の大きさを物語っています。もちろん現代人にも大きなインパクトを与えることに変わりはなく、最近では第1楽章の旋律がテレビドラマ「のだめカンタービレ」のテーマ曲として用いられたことは記憶に新しいです。

第1楽章 ポコ・ソステヌート～ビバーチェ イ長調 4分の4拍子～8分の6拍子 ソナタ形式

第2楽章 アレグレット イ短調 4分の2拍子 三部形式

第3楽章 プレスト ヘ長調 4分の3拍子 スケルツォ

第4楽章 アレグロ・コン・プリオ イ長調 4分の2拍子 ソナタ形式

～～ 休 憩 ～～



ブラームス 交響曲第3番 ヘ長調 作品90

Johannes Brahms / Symphonie Nr.3 F-dur, Op.90

慎重な作曲姿勢のために遅咲きだったブラームス。構想から完成まで20年を要した交響曲第1番や第2番の成功で、ようやく作曲家としての地位を確立したブラームスでしたが、その後も驕ることなく第3番の作曲も慎重でした。まず2台のピアノ版を親しい友人に披露し手ごたえをつかんだ後に、オーケストレーションに着手したほどです。しかし、この交響曲の作曲には意外な側面もあります。ブラームスは構想と同時期を温泉保養地で有名なヴィースバーデンで過ごしていましたが、そこには旧知の若いアルト歌手が住んでおり、彼女と会うのも滞在の目的でした。お互いに恋愛感情を抱くようになり周囲では結婚さえ噂される程でしたが、結局ブラームスはシューマンの妻であるクララへの思いを貫くこととなります。この曲の持つ力強く激しい情感が渦巻く曲想は、そうしたブラームスの心境が反映されたといえるでしょう。

作曲技法としては、他の交響曲と同様に曲の根幹を成す基本動機が用いられています。冒頭から示されるF-As-F(ドイツ語音名でファーラーフア)がそれにあたり、曲全体を支配しています。ブラームスが好んで口にしていた「Frei, aber Froh」、ドイツ語で「自由に、しかし喜ばしく」の頭文字が引用されたものです。「自由」と「喜ばしく」が逆説で結ばれているのは、ブラームスならではの皮肉や人生観なのでしょう。

曲は4楽章構成で、特に3楽章の憂愁を帯びた旋律は、映画「Goodbye again(さよならをもう一度)」の他に、フランク・シナトラの「Take my love」でも引用されて有名になりました。

第1楽章 アレグロ・コン・プリオ ヘ長調 4分の6拍子 ソナタ形式

第2楽章 アンダンテ ハ長調 4分の4拍子 ソナタ形式

第3楽章 ポコ・アレグレット ハ短調 8分の3拍子 3部形式

第4楽章 アレグロ ヘ短調～ヘ長調 2分の2拍子 ソナタ形式

Joetsu Symphony Orchestra

◎ 出演者

■コンサートマスター	三溝 健一	
■第1バイオリン	上野 圭子 小菅 宏造 田村 さやか 山川 美沙紀 岩田 貴守 * 田中 陽子 *	加藤 由香里 洲崎 匡 橋本 士郎 横田 幸恵 近藤 将弘 *
■第2バイオリン	青木 由美子 小坂 結 高松 理恵 藤山 昌子 山田 美幸 長谷川 美紀 *	泉 紀子 佐藤 己津子 田中 教生 藤原 満 吉村 理 林 哲朗 *
■ヴィオラ	稲田 由佳 古海 法雲 大庫 るい * 宮入 徹 *	中村 逸郎 渡辺 みほ 寺島 希容子 * 横田 裕祐 *
■チェロ	稲井 進 大坪 美樹 佐藤 慎悟 高橋 文子 水澤 由紀	上野 敦子 加藤 史子 惣塚 弘 古川 純子
■コントラバス	秋山 雅央 吉崎 須賀子 松原 直之 *	小柳 茂 渡辺 光
■フルート	木村 千尋 鈴木 希美	齊藤 孝久 丸山 恵理
■オーボエ	羽賀 純子 皆川 正弘	橋本 直子 皆川 未央
■クラリネット	伊藤 志帆 鈴木 和久	齊藤 直美 富田 洋加
■ファゴット	宮口 弘明 山崎 真吾 *	福嶋 梓
■ホルン	笹川 修一 森 真人	須田 孝義 綿貫 英紀
■トランペット	神戸 正雄 西山 岳志	中原 美千佳
■トロンボーン	笠野 光雄 山川 伸一	松田 彰英
■パーカッション	稲田 善智	中原 健二

50音順 *は賛助出演ならびに団友

◎ 次回演奏会のご案内

第68回定期演奏会

会場：上越文化会館 大ホール

日時：2012年3月4日(日) 開演 14:00

曲目：

ブラームス / 大学祝典序曲

ベートーベン / レオノーレ序曲第3番

チャイコフスキー / 交響曲第5番



◎ 団員募集のご案内

上越交響楽団では団員を募集しております。
通常オーケストラで演奏される楽器であれば、
どなたでも入団できます。

素敵で愉快的仲間達と素晴らしい音楽を創り
ましょう。

団員一同心より歓迎いたします

連絡先

事務局長 / 梅山 英行

TEL : 025-525-8415

E-mail : umebflat@gmail.com